

水稻湛水直播栽培において初中期一発除草剤 1 回施用では 残草リスクがある

福島県農業総合センター 作物園芸部 稲作科

1 部門名

水稻－水稻－雑草防除

2 担当者名

金澤優紀、齋藤正頼

3 要旨

べんがら・モリブデンコーティング（以下「べんモリ」という）及び鉄黒コーティング（以下「鉄黒」という）種子を用いた水稻湛水直播栽培において、初中期一発除草剤 1 回施用による除草効果を確認したところ、除草剤を 2 回処理する体系と比べて残草量が多く、高温条件による雑草生育の進展や田面の露出といった水管理によっては、初中期一発除草剤 1 回施用では雑草の発生を抑えられないおそれがあることが明らかになった。

(1) 初中期一発除草剤 1 回施用の場合、処理時期にかかわらず、べんモリではノビエ、鉄黒ではホタルイの残草量が体系処理と比べて多かった（表 1）。

表 1 残草調査結果

ほ場	処理時期 ^{注2}	ノビエ		ホタルイ	
		本数 (本/m ²)	乾物重 (g/m ²)	本数 (本/m ²)	乾物重 (g/m ²)
べんモリ	無除草	328	1237.7	583	133.2
	イネ 1 葉期	61	233.1	0	0
	ノビエ 4 葉期	128	482.9	0	0
	体系処理	0	0	0	0
鉄黒	無除草	39	144.3	1521	349.7
	イネ 1 葉期	0	0	72	16.7
	ノビエ 4 葉期	0	0	239	55.5
	体系処理	0	0	0	0

注 1) 1 区当たり 2 か所採取 × 2 反復の平均値。調査時期は 2025 年 7 月 2 日。

注 2) イネ 1 葉期、ノビエ 4 葉期はそれぞれの葉齢時にテフリトリオン・トリアファモン・フロルピラウキシフェンベンジル粒剤を、体系処理は播種直後にイマズスルフロン・ピリミノバックメチル・プロモブチド粒剤、イネ 1 葉期にピラクロニル・ピラゾレート・ベンゾビスクロン粒剤を処理した。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 6～7 年度
- (2) 研究課題名 省力的な稲作栽培に適応した雑草防除技術の確立

5 主な参考文献・資料

- (1) 渡邊ら, 鉄コーティング直播の低コスト除草体系, 令和 5 年度参考となる成果